巻頭エッセイ

Dちゃんだってバイリンガル！

山本雅代

「バイリンガル」と聞いて，日本では多くの人が「2つの言語が完璧に，母語話者として，あるいは母語話者並に話せる人」を思い描くようである。そんな能力を得たいと願う外国語学習者の思いが投影された理想像なのだろうと思われるが，なかなか理想の通りにはいかない，実相としてのバイリンガル。本稿ではそんなバイリンガルの一人を紹介しようと思う。

Dちゃんはハワイ生まれ・ハワイ育ちの9歳になる元気印の女児である。家族は英語母語話者のお父さん，英語も流暢な日本語母語話者のお母さん，日本語もけっこう使える英語母語話者のお兄ちゃんである。

筆者がご家族の協力を得て，Dちゃんの言語発達研究を始めたのは6年前，Dちゃんが3歳の時である。その時すでにDちゃんの言語環境は英語中心であったが，それでも研究開始後数年は日本語で話しかけるお母さんと過ごす時間が長く，日本語もそれなりに使っていた。しかし長ずるに従い，特に（現地の学校への）就学を機に日本語の使用が顕著に減じ，今では日本語はほとんど話さ／せ(？)ない。2つの言語との接触機会が不均衡な言語環境に育つ子どもに典型的に見られるコースを着実に歩んでいるDちゃんである。

「えっ，それでもバイリンガル？」と訝る読者もいよう。でも，「はい，そうです，バイリンガルです」。ほとんど話さ／せ(？)ないけれど，Dちゃんは，お母さんが日本語で話すことをそれなりに理解するので，受容のレベルで2つの言語が使える。バイリンガリズムの研究分野で，「受容バイリンガル」と呼ぶタイプのバイリンガルである。

決して強要はしないが日本語をもっと話してほしいと願うお母さんの期待に，Dちゃんは自分が十分に応えていないことをしっかり認識している…が，如何せん，どうにもならない。DちゃんにもDちゃんなりの葛藤はあるだろうと想像するが，どっこい，Dちゃんは逞しい。お母さんにこんなことを言ってのける。

〈なかなか日本語で話を返さないDちゃんとお兄ちゃんに，お母さんがちょっと愚痴っている〉

お母さん：だってにほんごのおはなししないじゃん　きょう　ぜんぜん　おにいちゃん　もえいごでしゃべって　D

お兄ちゃん：Yeah?

Dちゃん：Oh, yeah, but I listen to you. No worry.　［以下省略］

「お母さんの言ってることはちゃんと聞いてわかってるよ。心配しなくても大丈夫だよ」と言うDちゃんは，この時，4歳を数ヶ月超したばかり。

言語はどちらも「完璧」ではないし，日本語に至ってはどう間違っても母語話者とは言えないし，母語話者並に話すなど滅相もないというDちゃんではあるが，置かれた言語環境に応じた言語能力を発達させ，それを活用してお母さんとやりとりをしている。加えて，2つの言語との接触という言語経験を通じて，バイリンガルでなかったなら見過ごしていたであろう言語についてのあれこれ（この例でなら，「話すことと聞くことの間には補完関係が成立しうるのだ！」というDちゃんなりの理屈？）に気づいたり，考えたりすることができるという「おまけ」まで得ている。

冒頭のような理想のバイリンガル像からはほど遠いけれど，Dちゃんだってバイリンガル！！

（やまもと　まさよ・関西学院大学教授）